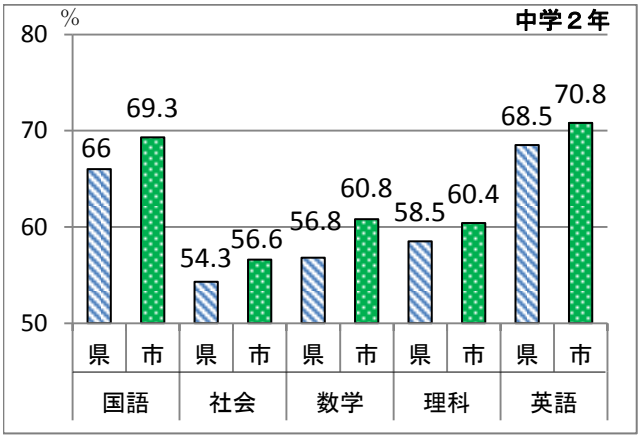
平成２９年度千葉市学力状況調査結果概要（中学校版）

１　県と本市の平均正答率との比較



【全教科、県平均を上回り良好】

◎国語は 3.3 ポイント、数学は 4.0 ポイント県平均を上回り、良好である。

○社会、理科、英語は、県平均を 1.9～2.3 ポイント上回り、概ね良好である。

○特に英語については、前年度と比較すると、県平均との差が 0.7 ポイントから 2.3 ポイントに上昇し良好である。

２　各教科の改善策

【国語】　言語活動を通して目的意識を明確にした学習の充実

○相手に考えを効果的に伝えるために、書いた文章を生徒同士で読み、助言し合う。助言をもとに自分の文章を改善したり、根拠となる事実や事柄を具体的に記述させたりする。

○文章における品詞の性質や特徴、働きを具体例を示しながら正しく理解させ、日常生活の中で適切に言葉を用いようとする意識へとつなげていく。

【社会】　知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の育成

○学習に関わる様々な資料や体験に伴う学習によって得られる資料を意図的に活用し、歴史的事象を比較・関連付けて理解・追究できるようにする。

○習得した知識・技能を活用する学習場面を設定し、思考・判断・表現する力を育成する。

【数学】　主体的に取り組む数学的活動のより一層の充実

○一次関数の特徴を表、式、グラフと関連付けて理解させる。また、具体的な事象の考察において、用語を適切に用いて表、式、グラフと関連付けた説明ができるようにする。

○「数学的な見方・考え方」を活用できる課題の設定や発問を工夫し、「数学的活動の楽しさ」を実感できる授業づくりをする。

【理科】　目的意識を持った観察・実験、根拠を基にした思考・表現

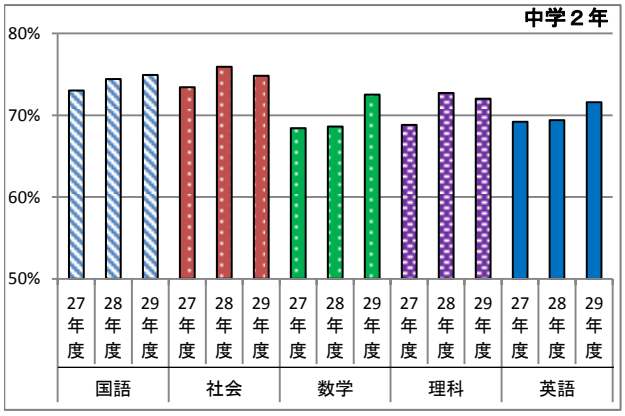
○観察・実験では、目的意識を十分に持たせ、根拠のある予想を立て、見通しを持って取り組むようにする。

○結果の分析・解釈・活用では、科学的な根拠に基づいて考察し、話し合いの中で、モデル化やグラフ化により考察した内容を表現する活動や、既知の知識や考え方を活用する活動を取り入れる。

【英語】　「聞くこと」、「書くこと」の基本を再確認

○「聞くこと」において、視覚教材を活用する等、対話の流れを予測し目的に応じて必要な情報を聞き取る力を高めるようにする。
○「書くこと」において綴りの指導をする際、簡単な語句や文を用いて書くことを取り入れたり、数字・曜日・季節・月名等を繰り返し活用する機会を設けたりすることにより、正確に書くことができるようにする。

3　学習に対する意識（学校の勉強がわかる）

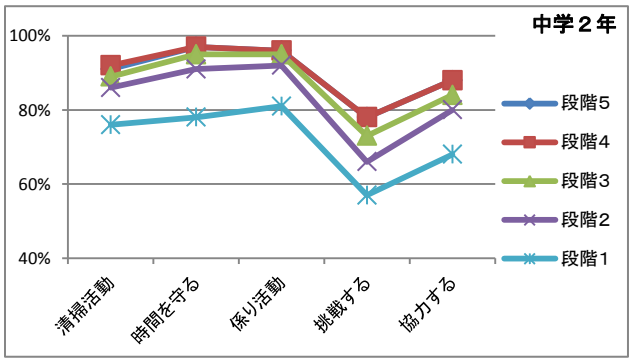


中学校全教科で、「わかる」という肯定的回答率が 70%以上である

特に国語と英語は年々上昇しており、数学は前年度に比べて 3.9 ポイント上昇している。
前年度に比べて、社会については 1.1 ポイント、理科については 0.7 ポイント、肯定的回答率が低下している。

4　学力と学校生活との関連

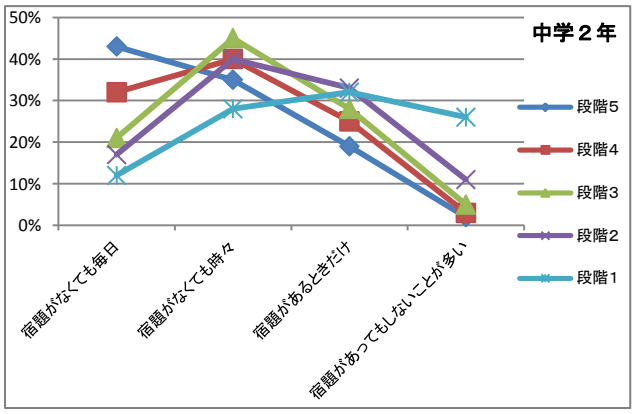
標準偏差により、段階５を成績上位群、段階２～４を成績中位群、段階１を成績下位群としている。



「成績上位群・中位群」と「成績下位群」では、学校生活の態度に大きな差がある

「成績上位群・中位群」と「成績下位群」では、学校生活の態度における肯定的回答率で差が大きく開いている。

5　学力と家庭学習との関連



「成績上位群」は家庭学習によく取り組んでいる

「成績上位群」は宿題がなくても毎日、「成績中位群」は時々家庭学習をしている生徒の割合が大きい。「成績下位群」では、宿題があってもしない生徒の割合が 26%と懸念される数値である。